

2000年小児科学教室業績

(1月～12月)

教授 小池通夫(平成12年3月退官) 吉川徳茂(平成12年8月就任)
助教授 上村 茂 樋口隆造(周産期部)
講師 小林昌和(周産期部) 柳川敏彦 鈴木啓之
助手 青柳憲幸 武内 崇 南 弘一 神波信次 北野尚美

研究概要

<腎グループ> IgA腎症およびネフローゼ症候群の治療法を確立するための全国多施設による臨床治療研究(小児IgA腎症治療研究会, 小児難治性腎疾患治療研究会, 事務局: 吉川徳茂)を進め, 成果をあげている。IgA腎症, 紫斑病性腎炎, ネフローゼ症候群, Alport症候群, 多発性嚢胞腎等の分子生物学的・形態学的手法を用いた病態解析を行い, 英文雑誌に掲載している。

<循環器グループ>先天性心疾患の循環動態の診断に, 非観血的検査である核磁気共鳴画像・位相画像法の有用性を確立した。特に, 同法を用いて肺体血流量比を本邦で初めて報告し, 従来定量化が困難であった房室弁逆流を初めて測定し, 手術適応に用いている。また, 川崎病の研究では, その原因として溶連菌外毒素の一つであるSPECがスーパー抗原として関与していることをつきとめ報告した。さらに, 全身性の血管炎の発症機序として, スーパー抗原によるポリクローナルなT細胞活性化から, 血管平滑筋に対する自己抗体(IgA・IgM分画)の産性が誘導され, これが関与していることを発見した。その特異抗原は70kDaのタンパクであることも判明しており, その同定を急いでいる。

<消化器グループ>小児のB型慢性肝炎・C型慢性肝炎に対する研究やインターフェロン療法の臨床的, 病理学的研究を全国的レベルで行い, 小児の肝炎に対するより良い治療法の確立を目指している。小児でのH-ピロリの罹患状況についての疫学調査を行っている。

<神経グループ>誘発電位(ABR, VEP, SEP)を使用し, 神経疾患の客観的評価の研究やビデオ・脳波システム, 長時間脳波記録装置の導入により, 発作性疾患(てんかん)の臨床的特徴も検討している。また, 急性脳炎・脳症の病態生理の臨床的, 基礎的研究に取り組んでいる。基礎的研究として代謝異常, 筋疾患の遺伝子解析の共同研究を行っている。被虐待児の県でのサーベイランスを実施し, その中心的施設として健康対策課・児童相談所との連携治療・予防のセンター的役割を担っている。心身症の臨床と研究に取り組んでいる。

<血液腫瘍グループ>血液悪性腫瘍グループでは, 急性白血病, 神経芽腫などの小児がんに関するグループスタディに参加し, 治療研究を行っている。また, 造血幹細胞移植を併用した大量化学療法, 細胞療法に取り組んでいる。小児がん発生とがん抑制遺伝子多型との関係, 血球貪食症候群におけるPerforin遺伝子解析・CTLA-4遺伝子多型の解析を行っている。

<遺伝染色体グループ>先天性異常疾患の診断, 患者家族への支援(遺伝相談・療育・カウンセリング)を主目的としている。尚, 各種遺伝性疾患のDNA等の材料維持保管のためにEBVによる患者細胞の樹立, 線維芽細胞の保存を行っている。

<未熟児・新生児グループ>病院中央部門周産期部が新生児部門と産科部門それぞれ定員2人, 計4人で1999年5月から新たに発足した。発足に先だって和歌山医大小児科NICUでは独自に開発した輸液管理プログラムを運用しており, これを元に周産期部発足後に周産期部NICUでは患者情報管理システムを開発して運用し始めた。人工換気療法としては慢性肺疾患に高頻度人工換気, 遷延性肺高血圧に一酸化窒素吸入を試みている。また, 全国的なrandomized controlled studyとして2000年から始った超低出生体重児に対する超早期授乳についての検討に当初から参画している。

著書

1. 吉川徳茂: 小児のネフローゼ症候群. “今日の治療指針” 多賀須幸男, 尾形悦郎編, pp 833-834, 医学書院, 東京, 2000
2. 吉川徳茂: 腎・泌尿器科疾患に関するカルテ用語. “カルテ用語辞典第3版” 大井静雄編, pp 224-238, 照

林社, 東京, 2000

3. 伊藤拓, 吉川徳茂: 微小変化型ネフローゼ症候群について. “小児科診療Q&A” NO. 30, 赤塚順一編, pp 320-321, 六法出版社, 東京 2000
4. 吉川徳茂: 紫斑病性腎炎. “今日の小児治療指針第12版” 矢田純一, 柳澤正義, 山口規容子, 大関武彦編, p 402-403, 医学書院, 東京, 2000
5. 飯島一誠, 吉川徳茂: ネフローゼ症候群. “薬剤師のための服薬指導ガイド第2版” 和田攻, 朝長文弥編, pp 779-784, 文光堂, 東京, 2000
6. 吉川徳茂: 小児の腎炎・ネフローゼ. “腎炎・ネフローゼ: 診断へのアプローチと治療戦略” 槇野編, pp 160-164, 南江堂, 東京, 2000
7. 奥田真珠美, 小池通夫, 宮代英吉: 感染経路と感染様式、*Helicobacter pylori* 感染の基礎と臨床. 下山 孝 編: 97-103, 日本メディカルセンター.
8. 南 弘一: アトピー性皮膚炎. 和歌山県 育児・育自応援book pp. 41, 2000
9. 小林昌和: 肛門膿瘍, 乳児痔瘻, 脱肛. 今日の小児治療指針第12版. 306, 2000; 矢田純一, 柳沢正義, 山口規容子, 大関武彦編, pp. 306, 医学書院, 東京, 2000
10. 小池通夫, 小林昌和: 母乳と牛乳の違い. 小児保健シリーズ50「赤ちゃんの栄養と食事」, 日本小児保健協会栄養委員会編, pp. 37-38, 日本保健協会, 東京, 2000
11. 小池通夫, 小林昌和: 育児用ミルクとフォローアップミルク. 小児保健シリーズ50「赤ちゃんの栄養と食事」, 日本小児保健協会栄養委員会編, pp. 37-38, 日本保健協会, 東京, 2000
12. 月野隆一, 佐々木美津代: がん遺伝カウンセリングの教育トレーニング. 家族性腫瘍遺伝カウンセリング - 理論と実際, 宇都宮讓二監修, pp. 182-191, 金原出版, 東京, 2000
13. 月野隆一, 佐々木美津代: 13q-症候群. 神経症候群V, pp. 329-331, 日本臨床社, 大阪, 2000
14. 月野隆一, 佐々木美津代: Trisomy 13 症候群, Patau 症候群. 神経症候群V, pp. 332-334, 日本臨床社, 大阪, 2000
15. 月野隆一, 佐々木美津代: 遺伝相談の体制と技法 - 病院 -. 周産期遺伝相談, 神崎秀陽, 玉置知子編集, pp. 168-175, 医学書院, 東京, 2000
16. 松原 央, 堂野純孝, 神波信次: 小児がん. がん診療レジデントマニュアル第2版, 国立がんセンター中央病院内科レジデント編, pp101-117, 医学書院, 東京, 2000

総説

1. Tanaka R, Iijima K, Tanaka R and Yoshikawa N: Genetics of immunoglobulin A nephropathy. Ann Acad Med Singapore 29: 364-369, 2000
2. Koike M, Kobayashi M, Okuda S, Okuda M, Tanaka T, Naito Y: Recent Trends in Viral Hepatitis among Japanese Children; Acta Pediatr Tw, 41: 246-250, 2000
3. Yanagawa T, Bunn F, Roberts I, Wentz R, Pierro A: Nutritional support for head injured patients. Cochrane Database Syst Rev2000: (2): CD001530
4. 吉川徳茂, 飯島一誠: ネフローゼ症候群の発症機構と診断・治療. 現代医療 32: 795-799, 2000
5. 飯島一誠, 吉川徳茂: 蛋白尿漏出機序. 腎と透析 48: 81-85, 2000
6. 吉川徳茂, 伊藤拓: IgA 腎症における治療の進歩 (小児). Mebio 17: 34-39, 2000
7. 吉川徳茂, 伊藤拓: 副腎皮質ステロイドの適応と実際の治療: IgA 腎症-小児および成人. 内科 86: 100-104, 2000
8. 吉川徳茂, 伊藤拓: 腎疾患-IgA 腎症. 小児内科 32: 2152-2156, 2000
9. 吉矢邦彦, 飯島一誠, 吉川徳茂: 小児用ダイアライザーと透析回路. 腎と透析 臨時増刊号: 334-335, 2000
10. 飯島一誠, 浜平陽史, 小林明子, 中村肇, 吉川徳茂: 小児期ネフローゼ症候群におけるシクロスポリン慢性腎障害の発症機序. 日本小児腎臓病学会雑誌 13: 103-106, 2000
11. 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司: A型肝炎ウイルス. 臨床と微生物27: 59-62, 2000
12. 奥田修司, 小林昌和, 小池通夫: 周期性嘔吐症. 小児科疾患Q&A30: 56-59, 2000

13. 小林昌和：マクロライド系抗生物質の使いかた。小児内科32：204-209, 2000
14. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 田中智之：わが国の H. pylori 感染状況—小児の現状と感染経路—。小児科診療 63：649-654, 2000
15. 小池通夫, 小林昌和, 奥田真珠美：小児の腹痛。診断と治療88：971-979, 2000
16. 小池通夫, 佐々木美津代, 小林昌和, 奥田真珠美：細菌性赤痢。日本医事新報3977：5-10, 2000
17. 中西浩一, Sweeny Jr WE, Ellis DA: Polycystic kidney disease:新しい治療にむけて。発達腎研究会誌 8(1):3-9, 2000
18. 鈴木啓之, 小池通夫, 上村 茂, 宮脇正和, 北野尚美, 武内 崇, 野田英作, 小山博史：川崎病—冠動脈瘤をつくらぬ診断と治療のコツはあるか—検査成績と重症度。小児科診療63(5)：677-683, 2000
19. 柳川敏彦, Ian Roberts, 津谷喜一郎：ME T A とは何か—未公開臨床試験を探す「アムネスティ」の試み—臨床評価 27, 503-508, 2000
20. 柳川敏彦, 小池通夫, 下山田洋三：子どもの虐待 発見と対応—医療現場から①。チャイルドヘルス 3：15-18, 2000
21. 柳川敏彦：子どもの虐待の発見と保育所の役割。保育の友 48：11-16, 2000

原著

1. Shiozawa S, Komai K, Konishi Y, Hikasa M, Mukae N, Shiozawa K, Kitagawa M, Yoshikawa N and Kawasaki H: An approach to identify new genes in autoimmune diseases: lessons from rheumatoid arthritis. Reviews in Immunogenetics. 2: 133-139, 2000
2. Xu H, Iijima K, Shiozawa S, Shirakawa T, Nakamura H and Yoshikawa N: Platelet-activating factor acetylhydrolase gene mutation in Japanese children with Escherichia coli O157-associated hemolytic uremic syndrome. Am J Kidney Dis 36: 42-46, 2000
3. Ogura Y, Suzuki S, Shirakawa T, Masuda M, Nakamura H, Iijima K and Yoshikawa N: Haemophilus parainfluenzae antigen and antibody in children with IgA nephropathy and Henoch-Schönlein nephritis. Am J Kidney Dis 36: 47-52, 2000
4. Yoshioka K, Ohashi Y, Sakai T, Ito H, Yoshikawa N, Nakamura H, Tanizawa T, Wada H, Maki S : A multicenter trial of mizoribine compared with placebo in children with frequently relapsing nephrotic syndrome. Kidney Int 58: 317-324, 2000
5. Shimizu K, Kawasaki H, Morisawa T, Nakamura M, Yamamoto E, Yoshikawa N, Doita M, Shiozawa K, Yonehara S, Chihara K, Shiozawa S: Spontaneous and cytokine regulated c-fos gene expression in rheumatoid synovial cells: resistance to cytokine stimulation when the c-fos gene is overexpressed. Ann Rheum Dis 59:636-40, 2000
6. Kobayashi Y, Honda M, Yoshikawa N, Ito H: Acute tubulointerstitial nephritis In 21 Japanese children. Clin Nephrol 54:191-197, 2000
7. Iijima K, Hamahira K, Kobayashi A, Nakamura H, Yoshikawa N. Immunohistochemical Analysis of Renin Activity in Chronic Cyclosporine Nephropathy in Childhood Nephrotic Syndrome. J Am Soc Nephrol 11: 2265-2271, 2000
8. Kobayashi M, Koike M, Sakiyama M, Okuda S, Okuda M, Tanaka T, Unno A, Nittono H, Takei H, Murai T, Yoshimura T, Kurosawa T : 3 β -hydroxy- Δ 5-C27-steroid dehydrogenase/isomerase deficiency in a 23-year-old woman. Pediatric International 42 : 685-688, 2000
9. Sweeney WE, Chen Y, Nakanishi K, Frost P Avner ED: Treatment of polycystic kidney disease with a novel tyrosine kinase inhibitor. Kidney Int 57:33-40, 2000
10. Nakanishi K, Sweeney Jr. WE, Zerres K, Guay-Woodford LM, Avner ED: Proximal tubular cysts in fetal human autosomal recessive polycystic kidney disease. J Am Soc Nephrol 11:760-3, 2000
11. Tadashi I, Mitsuyo S, Michio K: Short and Long Term of Breast Feeding on Child Health, APOPTOSIS IN LACTATING RAT MAMMARY TISSUE USING TUNEL METHOD, Klawer Academic/Plenum Publishers, pp367-370, 2000

12. 奥田真珠美, 宮代英吉, 小池通夫, 田中智之, 小林昌和, 奥田修司, 石井 侃: 便中抗原検出法を用いた小児の *Helicobacter pylori* 感染状況 —血清抗体との比較と小児での測定の意義—. 医学のあゆみ 192(8): 871-872, 2000
13. 奥田真珠美, 宮代英吉, 小池通夫, 田中智之, 小林昌和, 奥田修司, 石井 侃: わが国の *H. pylori* 感染状況 —小児の現状と感染経路—. 小児科診療 63(5), 649-654, 2000
14. 宮代英吉, 奥田真珠美, 石井 侃: 病院における職種別 *Helicobacter pylori* I g G 抗体保有状況. 総合臨床 49(10): 2712-2715, 2000
15. 堀野明美, 上村茂, 紀平省吾, 西本幸弘, 小池通夫: 生後2か月で診断にいたったりボ淡白リパーゼ欠損症の女児例. 和歌山医学 51 巻2号, 249-251, 2000
16. 北野尚美, 柳川敏彦, 南 弘一, 小池通夫: Shaken baby syndrome で発症し、身体的虐待を防げなかった一例. 子どもの虐待とネグレクト2 (1). 日本子どもの虐待防止研究会学術雑誌 164-170, 2000
17. 柳川敏彦, 下山田洋三, 紀平省悟, 南 弘一, 崎山美知代, 北野尚美, 小池通夫, 前田哲也, 市川光太郎, 峯本耕治: メディカルネグレクトの対応について. 子どもの虐待とネグレクト2 (1): 101-110, 2000
18. 奥田真珠美, 小池通夫, 宮代英吉, 田中智之, 小林昌和, 石井 侃, 奥田修司: 小児の *Helicobacter pylori* 抗体保有状況と乳幼児期の家庭・保育環境からみた感染経路の検討. 日本小児科学会雑誌104: 426-430, 2000
19. 南 弘一, 柳川敏彦, 小林昌和, 鈴木啓之, 中西直行, 下山田洋三, 大石 興, 吉野健一, 竹田多恵, 小池通夫: 腸管出血性大腸炎O157と共通抗原を持つ *Salmonella Urbana* (030) による重度の神経の後遺症を残したサルモネラ症の1例. 小児感染免疫12: 19-22, 2000
20. 奥田真珠美, 小池通夫, 宮代英吉, 田中智之, 小林昌和, 奥田修司, 石井 侃: 日本人小児の *Helicobacter pylori* 感染状況と感染経路の検討. 和歌山医学51: 219-224, 2000
21. 奥田真珠美, 宮代英吉, 小池通夫, 田中智之, 小林昌和, 南 弘一, 石井 侃, 奥田修司: 小児の *Helicobacter pylori* IgG, IgA 抗体陽転時期の比較. 日本小児栄養消化器病学会雑誌14: 66-69, 2000
22. 紀平省悟, 西本幸広, 高崎吉徳: 神経性食欲不振症の1例—外傷理論による病態の理解—. 子どもの心とからだ, 9(1): 55-62, 2000
23. 南 孝臣, 樋口隆造, 宮脇正和, 山家宏宣, 小山博史, 北野尚美, 小林昌和: 新しい NICU 患者情報管理システム. 小児科臨床 VOL. 53: 1959-1965, 2000
24. 上村 茂, 武内 崇, 鈴木啓之, 半田暁司: 核磁気共鳴画像(MRI)速度マッピング法を用いた小児での心拍出量および心内短絡量の測定—oxymetry 法との比較—. 進歩する心臓研究—Tokyo Heart Journal—, 20 巻, p72-80, 2000
25. 飯塚忠史, 佐々木美津代, 小池通夫: 日本臨床栄養学会雑誌 21 (3, 4), pp71-77, 2000
26. 大石 興, 佐々木美津代, 飯塚忠史, 上村 茂, 小池通夫: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌保菌新生児の自然経過について. 小児科臨床 53 巻 (7), 1349-1352, 2000
27. 小西紀彦, 松浦典代, 萩原義種, 西岡弘八, 田中衣子, 飯塚忠史, 松浦良和, 宏見恭子: 「生活の目的」に基づきニーズの優先順位を設定 (伊都医師会高齢者問題研究会). 「G P n e t」47 巻 (6), 72-77, 2000

その他の論文

1. 上村 茂, 武内 崇, 鈴木啓之: 川崎病の治療と長期管理に関する研究; Gd-DTPA 持続静注法による川崎病巨大冠動脈瘤の3次元 coronary MR angiography. 平成11年度厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業) 報告書 137-138, 2000
2. 月野隆一: 遺伝カウンセリングの具体的事例 (1). 遺伝相談のいま (21), 家族と健康, p. 3, 日本家族計画協会, 2000. 6
3. 月野隆一: 遺伝カウンセリングの具体的事例 (1). 遺伝相談のいま (22), 家族と健康, p. 3, 日本家族計画協会, 2000. 7
4. 月野隆一: 遺伝カウンセリングの具体的事例 (1). 遺伝相談のいま (23), 家族と健康, p. 3, 日本家族計画協会, 2000. 8

5. 月野隆一：遺伝カウンセリングの具体的事例 (1). 遺伝相談のいま (24), 家族と健康, p. 3, 日本家族計画協会, 2000. 9
6. 月野隆一：遺伝カウンセリングを担当する医師の統一に関する研究 (黒木良和、青木菊磨班). 平成 11 年度厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書, 遺伝医療システムの構築と運用に関する研究, 主任研究者古山順一 912-913, 2000
7. 月野隆一：遺伝カウンセリングの在り方に関する研究 (鈴木友和班). 平成 11 年度厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書, 遺伝医療システムの構築と運用に関する研究, 主任研究者古山順一 924-929, 2000
8. 月野隆一：遺伝子検査の外注のあり方について (鈴木友和班). 平成 11 年度厚生科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 報告書, 遺伝医療システムの構築と運用に関する研究, 主任研究者古山順一 930-932, 2000

学会報告

a) 国際会議

1. Kobayashi M, Koike M, Sakiyama M, Okuda S, Okuda M, Tanaka T, Unno A, Nittono H, Takei H, Murai T, Kurosawa T: A 23-year-old case of 3β -hydroxy- Δ^5 -C27-steroid dehydrogenase/isomerase deficiency; International Association for the Study of the Liver(IASL)-the Asian Panpacific Association for the Study of the Liver(APASL) Joint Meeting 2000, June 2000, Fukuoka, Japan
2. Masuda M, Ogura Y, Suzuki S, Shirakawa T, Nakamura H, Iijima K, Yoshikawa N: Haemophilus parainfluenzae antigen and antibody in children with iga nephropathy and henocho-schoelein nephritis. 33rd Annual Meeting Of The American Society Of Nephrology, 2000.10.13-16 Toronto, Canada
3. Maruyama K, Yoshida M, Nishio H, Shirakawa T, Kawamura T, Tanaka R, Nakamura H, Iijima K, Yoshikawa N: Polymorphisms of renin-angiotensin system genes and proteinuria in children with iga nephropathy. 33rd Annual Meeting of the American Society of Nephrology, 2000.10.13-16 Toronto, Canada
4. Nishimoto K, Iijima K, Shirakawa T, Kitagawa K, Satomura K, Nakamura H, Yoshikawa N: Pax2 gene mutations in renal hypoplasia. 33rd Annual Meeting of the American Society of Nephrology, 2000.10.13-16 Toronto, Canada
5. Sakurai K, V Ruotsalainen, K Tryggvason, Masuda M, Iijima K, Yoshikawa N: Expression of nephrin in nephrotic syndrome. 33rd Annual Meeting of the American Society of Nephrology, 2000.10.13-16 Toronto, Canada
6. Hamahira K, Iijima K, Nakamura H, Yoshikawa N: Cyclosporin-associated arteriolopathy is improved by discontinuation of the drug. 33rd Annual Meeting of the American Society of Nephrology, 2000.10.13-16 Toronto, Canada
7. Iijima K, Hamahira K, Kobayashi A, Nakamura H, Yoshikawa N: Immunohistochemical analysis of renin activity in chronic cyclosporine nephropathy in childhood nephrotic syndrome. 33rd Annual Meeting Of The American Society Of Nephrology, 2000.10.13-16 Toronto, Canada
8. Nakanishi K, Sweeney Jr. WE, Dell KM, Cotton CU, Avner ED: Transmembrane conductance regulator (CFTR) activity is not required for cyst formation in autosomal recessive polycystic kidney disease (ARPKD) mouse model. 33rd Annual Meeting of the American Society of Nephrology, October 2000, Toronto, Canada
9. Yoshikawa N, Itoh H, and The Japanese Pediatric IgA Nephropathy Treatment Study Group: Symposium. A controlled trial of prednisolone, azathioprine, heparin-warfarin and dipyridamole in newly diagnosed severe childhood IgA nephropathy. 6th Asian Congress of Pediatric nephrology, 2000. 11. 4-6, Singapore

b) シンポジウム、学術講演等

1. 月野隆一：デュシャンヌ型筋ジストロフィー症の遺伝相談. 遺伝相談医師再教育研修会 2000. 1 東京
2. 鈴木啓之, 小池通夫, 上村 茂, 宮脇正和, 北野尚美, 武内 崇, 野田英作, 小山博史: 川崎病—冠動脈

瘤をつくらぬ診断と治療のコツはあるか—検査成績と重症度. 第 103 回日本小児学会学術集会 2000. 4. 和歌山

3. 吉川徳茂, 飯島一誠, 伊藤拓: ワークショップ「小児と成人の糸球体腎炎: その異同と carry over」IgA 腎症: 小児科の立場より. 第 43 回日本腎臓学会総会 2000. 5. 11-13 名古屋
4. 吉川徳茂: 特別講演「小児 IgA 腎症の治療」近畿腎疾患談話会 2000. 5. 20 大阪
5. 月野隆一: 遺伝疾患をもった人のフォロー. 和歌山市学校医会 2000. 5 和歌山
6. 紀平省悟: 「こどもの虐待について」第 52 回和歌山県放射線技師会総会, 2000. 6. 4. 有田市保健センター.
7. 小林昌和: 「小児におけるマクロライド系抗生物質の最近の知見」和歌山小児科医会学術講演会, 2000. 6. 和歌山市
8. 下山田洋三: 「てんかん学 2000」日本てんかん協会和歌山県支部専門職講座, 2000. 6. 和歌山市
9. 下山田洋三: 「障害児の教育と医療」平成 12 年度盲・ろう・養護学校 6 年次および 11 年次教職経験者研修, 2000. 6. 和歌山市
10. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 田中智之: わが国の *Helicobacter pylori* 感染状況, 小児の現状と感染経路, 小児ヘリコバクター・ピロリ菌感染症の診断治療のためのガイドラインのコンセンサス. 第 103 回日本小児科学会学術集会: 2000. 6. 和歌山
11. 小林昌和: 「小児の感染症の最近の動向について」日医生涯教育講座, 200. 7. 15. 田辺市
12. 奥田真珠美: 小児の *Helicobacter pylori* - 感染状況, 感染時期, 感染経路と自然経過を中心に - 第 4 回 兵庫ヘリコバクター・クラブ 講演, 2000. 7. 神戸市
13. 月野隆一: 遺伝の仕組み・遺伝病は何故起こる?. 遺伝相談メディカル初級コース 2000. 7 東京
14. 月野隆一: 染色体. 遺伝相談メディカル初級コース 2000. 7 東京
15. 月野隆一: 遺伝病と男と女. 遺伝相談メディカル初級コース 2000. 7 東京
16. 月野隆一, 小野正恵: 遺伝相談実例提示・ロールプレイ. 遺伝相談医師研修会 (基礎コース) 2000. 7 東京
17. 月野隆一: メンデル遺伝と遺伝的病因論. 遺伝相談医師研修会 (基礎コース) 2000. 7 東京
18. 月野隆一: 遺伝形式の推定. 遺伝相談医師研修会 (基礎コース) 2000. 7 東京
19. 月野隆一: 小奇形の見方. 遺伝相談医師研修会 (基礎コース) 2000. 7 東京
20. 白井高司: ダウン症の子どもたちの医療と療育. 田辺市子育て支援センター保育士講習会 2000. 8. 21. 田辺市
21. 小林昌和: 「子どもの身体の発育」養護教諭研究フォーラム. 2000. 8. 23. 大阪市
22. 小林昌和: 「専門家との連携による生活習慣病予防—生活習慣病」和歌山県学校保健研修会, 2000. 8. 24. 和歌山市
23. 月野隆一: 臨床遺伝専門医制度について. 家族性腫瘍研究会セミナー 2000. 8
24. 白井高司: 保育所で気になる感染症. 田辺市保育所講演会 2000. 9. 2. 田辺市
25. 月野隆一: 親子鑑定と遺伝相談. 遺伝医学セミナー 2000. 9 東京
26. 吉川徳茂: 特別講演「こどもの腎臓病」和歌山小児保健研究会 2000. 10. 5 新宮市
27. 吉川徳茂: ランチョンセミナー「原発性糸球体疾患の治療」第 30 回日本腎臓学会西部学術大会 2000. 10. 19-20 岡山
28. 吉川徳茂: 特別講演「小児 IgA 腎症の治療」第 21 回静岡腎セミナー 2000. 10. 21 静岡
29. 紀平省悟: 「言葉と対人関係に問題をもつ乳幼児」小児保健研修会, 2000. 9. 30. 和歌山市および 2000. 10. 21. 田辺市.
30. 鈴木啓之, 武内 崇, 上村 茂, 吉川徳茂, 村垣泰光, 吉岡 健, 鈴木隆二: 川崎病発症への溶連菌外毒素 (SPE-C) の関与について 第 20 回日本川崎病研究会 2000. 10. 東京
31. 吉川徳茂: 特別講演「小児 IgA 腎症の治療」岡山腎疾患談話会 2000. 11. 11 岡山
32. 吉川徳茂: 特別講演「小児腎疾患の治療」和歌山県医師会学術講演会 2000. 11. 25 和歌山市
33. 下山田洋三: 「てんかん医療の基礎」日本てんかん協会奈良県支部医療講演会, 2000. 11. 橿原市
34. 小林昌和: 「小児のウイルス疾患—インフルエンザ、麻疹を中心に」第 2 回泉大津小児疾患研究会, 2000. 11. 13. 泉大津市

35. 小林昌和：「小児の細菌感染症について—A 群溶連菌」石川県小児科医会学術講演会，2000. 11. 19. 金沢市
36. 小林昌和：「小児における溶連菌感染症の問題点」宮崎市郡小児科医会学術講演会，2000. 11. 30. 宮崎市
37. 月野隆一：染色体障害児の健康について，また，青年期に向けての心がけについて 和歌山保育士研修会 2000. 11 和歌山
38. 吉川徳茂：特別講演「学校検尿で発見される腎疾患の診療」和歌山市医師会学術講演会 2000. 12. 9 和歌山市
39. 小林昌和：「小児における溶連菌感染症の問題点」和歌山市医師会小児科部会学術講演会，2000. 12. 9. 和歌山市
40. 月野隆一：経験的再発率と再発率の評価. 遺伝相談コメディカル上級コース 2000. 12 東京
41. 下山田洋三：「今必要とされている、家庭教育への支援とは」平成 12 年度家庭教育支援のためのネットワーク研究会，2000. 12. 貴志川町
42. 月野隆一：染色体異常の遺伝相談. 遺伝相談コメディカル上級コース 2000. 12 東京
43. 月野隆一：保因者について. 遺伝相談コメディカル上級コース 2000. 12 東京

c) 全国学会

1. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 田中智之: 小児の *Helicobacter pylori* 感染診断における便中抗原測定の意義, 第 4 回日本小児 H. pylori 研究会, 2000. 3. 横浜
2. 佐々木美津代, 飯塚忠史, 月野隆一, 上村 茂, 木村美佐, 松岡瑠美子: 本邦第 1 例と思われる 22q11.2 欠失症候群モザイク例. 日本臨床遺伝学会第 24 回大会 2000. 5. 大阪
3. 月野隆一, 佐々木美津代: 受容困難であった 13trisomy/13marker chromosome モザイク例. 臨床遺伝学会 2000. 5 大阪
4. 月野隆一: 学会名変更問題についての一考察. 臨床遺伝学会 2000. 5 大阪
5. 佐々木美津代, 月野隆一: 本邦第一例目と思われる CATCH22 モザイク例. 臨床遺伝学会 2000. 5 大阪
6. 南 弘一, 柳川敏彦, 下山田洋三: Midazolam が急性期のけいれん群発に有用であった特異な脳炎・脳症後てんかんの一群と思われる 1 例. 第 42 回日本小児神経学会総会, 2000. 6. 8. 大阪
7. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 田中智之: 小児期 *Helicobacter pylori* 感染における非侵襲的診断法の検討, 第 6 回 日本ヘリコバクター学会. 2000. 6, 東京
8. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 坊岡美奈: 小児の *Helicobacter pylori* 感染の自然経過, 第 27 回 日本小児栄養消化器学会, 2000, 6, 所沢
9. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 井上徳浩: 新生児期に白色便を呈し、胆道閉鎖との鑑別を要した Dubinn-Johnson 症候群の 1 例, 第 27 回 日本小児栄養消化器学会, 2000, 6, 所沢
10. 白井高司, 宮本聡, 小川佳子, 太田公子: 通所療育活動での家族支援—地域の中で親が望むもの—. 第 35 回日本発達障害学会, 2000. 7. 青森
11. 宮脇正和, 北野尚美, 小林昌和, 樋口隆造: 低用量 NO 療法が有効であった超低出生体重児の一例 第 36 回日本新生児学会 2000. 7. 東京
12. 佐々木美津代, 松岡瑠美子, 木村美佐, 上村 茂, 鈴木啓之, 飯塚忠史: 染色体 22 番 q11.2 半接合体微小欠失モザイクを示した有意の心合併奇形の無い Conotruncal anomaly face 症候群の 1 男児例. 第 36 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2000. 7. 鹿児島
13. 佐々木美津代, 松岡瑠美子, 木村美佐, 上村 茂, 鈴木啓之, 飯塚忠史: 染色体 22 番 q11.2 半接合体微小欠失モザイクを示した有意の心合併奇形のない conotruncal anomaly face 症候群の 1 男児例. 第 36 回日本小児循環器学会. 2000. 7. 鹿児島市
14. 大石 興, 小山佳紀, 紀平省悟: 極度の疲労感を訴えた中学 3 年女子への対応. 第 18 回日本小児心身医学会, 2000. 8. 大阪
15. 小山佳紀, 小山要: 家庭環境が起因で摂食障害になったと思われる 11 歳男児例の関わり方. 第 18 回日本小児心身医学会, 2000. 8. 大阪
16. 下山田洋三, 重里敏子, 柳川敏彦: 焦点性の発作発射で脱力発作を呈し、スルチアムで発作が消失した 2

歳女児例. 第34回日本てんかん学会, 2000. 9. 東京

17. 平松知佐子, 芳山 恵, 神波信次, 青柳憲幸: 初発時高カルシウム血症を合併した急性骨髄性白血病(M5a)の1歳女児例. 第42回日本小児血液学会, 2000. 9. 大阪
18. 神波信次, 中山京子, 芳山 恵, 中森幸絵, 青柳憲幸: Meningeal Primitive Neuroectodermal Tumor と考えられる3歳男児例. 第16回日本小児がん学会, 2000. 11. 大宮市
19. 南 弘一, 柳川敏彦, 鈴木啓之, 小林昌和, 小池通夫, 吉川徳茂, 奥田真珠美: 非チフス性サルモネラ腸炎に伴う急性脳症の検討. 第32回日本小児感染症学会, 2000. 11. 25. 東京
20. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 南 弘一, 小林昌和, 小池通夫: Helicobacter pylori 家族内集積の検討. 第32回日本小児感染症学会, 2000. 11. 25. 東京
21. 南 孝臣, 谷健, 北野尚美, 小林昌和, 樋口隆造, 宮脇正和, 山家宏宣: NICU 患者情報管理システム導入後の評価. 第45回 日本未熟児新生児学会, 2000. 11. 新潟
22. 北野尚美, 宮脇正和, 小林昌和, 樋口隆造: 静注用インドメタシン使用後に生じた高血糖高浸透圧性昏睡の1例, 第45回日本未熟児新生児学会学術集会, 2000. 11. 新潟
23. 紀平省悟, 大石興, 小山佳紀: 自閉症児の初期親面接を考える. 第18回日本小児心身医学会, 2000. 8. 吹田市.
24. 下山田洋三, 岡安 勤: 肢体不自由児施設における措置入院児について- 当園入院児の家族背景を中心とした検討-. 第47回日本小児保健学会, 2000. 11. 高知市
25. 下山田洋三, 岡安 勤: 肢体不自由児施設における被虐待児の検討. 第6回日本子どもの虐待防止研究会あいち大会, 2000. 12. 名古屋市
26. 北野尚美, 柳川敏彦, 南 弘一, 吉川徳茂: 1ヶ月健診で発見された体重増加不良の6例, 第6回日本子どもの虐待防止研究会あいち大会. 2000. 12. 名古屋市

d) 地方学会

1. 辻 知見, 野田英作, 島 友子, 田村 学, 小山博史, 番 浩: 劇症型A群溶連菌感染症の1例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
2. 堀江延和: インフルエンザワクチンの副反応. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
3. 奥田真珠美, 宮代英吉, 井上徳浩, 石井 侃: 一過性に高度肝機能障害を呈し、後天性サイトメガロウイルス感染が疑われた1歳男児例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
4. 佐々木美津代, 飯塚忠史, 井上 泉, 上村 茂: 十二指腸潰瘍, 胃炎を合併したアレルギー性紫斑病の1女児例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
5. 西原正康, 坂本久子, 神波信次, 青柳憲幸, 上村 茂, 小池通夫, 下山田洋三, 米田勝紀: ガンマグロブリン1回, 1,000mg/kg 静注療法を行った特発性血小板減少性紫斑病の2例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
6. 小山博史, 田中 彰, 辻 知見, 島 友子, 野田英作, 番 浩, 上村 茂, 小池通夫: 肺高血圧症に対し経口PGI2製剤が有効であった2例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
7. 矢田菜穂子, 奥田修司, 岩橋誠司, 楠山美奈, 神波信次, 青柳憲幸, 小池通夫: 仙尾部奇形種の新生児例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
8. 佐藤晋一, 南 弘一, 上村 茂, 小池通夫: 尿細管性アシドーシスの父子例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
9. 神波信次, 高木理恵子, 南 弘一, 青柳憲幸, 柳川敏彦, 小池通夫, 小山佳紀, 小山 要: Neoplastic Meningitisで発症したoccult PNET/Medulloblastomaと思われる一例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
10. 水越真里, 崎山美知代, 宮下律子, 中西直之, 能勢和宏, 片岡喜代徳, 島田憲次: 膀胱尿管逆流症を呈した双生児例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
11. 北野尚美, 柳川敏彦, 南 弘一, 楠山美奈, 小池通夫: Shaken baby syndrome の後、身体的虐待に移行した1例. 第126回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 1. 田辺市
12. 井上徳浩, 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和: 新生児期に白色便を呈したDubin-Johnson

- 症候群の1例, 第13回 近畿小児科学会, 2000.2.神戸
13. 末永智浩, 南 弘一, 武内 崇, 鈴木啓之, 上村 茂, 小池通夫: スポーツドリンクの多飲が原因と考えられる脚気衝心の1歳7か月女児—心機能障害に対するビタミンB1治療経過—. 第14回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会. 2000.2. 大阪
 14. 武内 崇, 鈴木啓之, 上村 茂, 駒井宏好, 藤原慶一, 内藤泰顕: ヘリカル CT が診断に有用であった大動脈弓離断・大動脈肺動脈中隔欠損・右肺動脈上行大動脈起始の新生児救命例. 第14回日本小児循環器学会近畿・中四国地方会. 2000.2. 大阪
 15. 芳山 恵, 神波信次, 青柳憲幸, 南 弘一, 柳川敏彦, 小池通夫, 宮代英吉, 下山田洋三: 重篤な中枢神経合併症をきたした Hemophagocytic Syndrome (HPS) の2例. 第13回近畿小児科学会, 2000.3.5. 神戸市
 16. 佐古まゆみ, 月野隆一, 中谷如希, 中元耕一郎: 髄膜刺激症状で発症した髄膜腫瘍の一例, 近畿小児神経, 2000.3
 17. 南 弘一, 熊谷 健, 神波信次, 柳川敏彦, 中尾直之, 山家宏宣, 木津俊一: 意識消失発作で発見された静脈性血管腫の1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 18. 佐古まゆみ, 月野隆一, 中谷如希, 中元耕一郎: 髄膜刺激症状を契機に発見された馬尾上衣腫の1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 19. 野田英作, 番 浩, 井上徳浩, 田村 彰, 宮脇正和, 洪田昌一, 石川士郎, 島 友子, 辻 知見, 小池通夫, 土生川千珠, 綾 直文, 鈴木康之: 先天性胆道閉鎖症との鑑別が困難であった Zellweger 症候群の1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 20. 芳山 恵, 楠山美奈, 武内 崇, 神波信次, 青柳憲幸, 後藤哲也: ウェステルマン肺吸虫の母子例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 21. 森 喜美香, 月野隆一: 腸チフスの1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 22. 熊谷 健, 山家宏宣, 篠崎正博, 友瀧佳明, 森永俊彦, 上野雅巳, 大浦晴夫, 川崎貞男, 中 敏夫, 梅本善哉, 西田宗弘, 岡田守弘, 木下博之, 那須英紀, 乾 晃造: 和歌山県立医大救急集中治療部における小児熱傷17例の検討. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 23. 水越真里, 宮下律子, 中西直之, 小山博史, 崎山美知代: 胎児母体間輸血で重症貧血を呈した1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 24. 宮脇正和, 番 浩, 井上徳浩, 田村 彰, 洪田昌一, 野田英作: 過去10年間の当院における V-P シャント施行例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 25. 武内 崇, 鈴木啓之, 上村 茂, 鎌田政博: 動脈管開存 (PDA) に対する心臓カテーテルによるコイル塞栓術の経験. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 26. 末永智浩, 宮代英吉, 奥田真珠美, 石井 侃: 若年性関節リウマチで治療中にマクロファージ活性化症候群を合併した1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山
 27. 矢田菜穂子, 岩橋誠司, 奥田修司, 青枝秀男, 峠 弘: XX male の1例. 第127回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.6. 和歌山市
 28. 宮代英吉, 末永智浩, 奥田真珠美, 石井 侃: 当院職員の *Helicobacter pylori* 抗体保有状況. 第68回 和歌山医学会総会, 2000.7. 和歌山
 29. 奥田真珠美, 末永智浩, 宮代英吉, 石井 侃, 小池通夫, 小林昌和, 奥田修司, 田中智之: 小児の *Helicobacter pylori* 抗体保有状況. 第68回 和歌山医学会総会, 2000.7. 和歌山
 30. 武内 崇, 鈴木啓之, 上村 茂, 鎌田政博: 動脈管開存 (PDA) に対する心臓カテーテルコイル塞栓術の経験. 第68回和歌山医学会総会. 2000.7. 和歌山市
 31. 崎山美知代, 神波信次, 吉益 哲, 中西直之, 岩橋誠司, 青柳憲幸, 吉川徳茂, 津田忠昭, 大田喜一郎, 津野 博: 和歌山県立医科大学小児科における幹細胞移植9例の検討. 第128回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.10. 和歌山市
 32. 野田英作, 番 浩, 井上徳浩, 田村 彰, 宮脇正和, 洪田昌一: 免疫寛容導入療法が有効であった凝固第VIII因子インヒビター保有血友病Aの1例. 第128回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.10. 和歌山市
 33. 泉 鉉吉, 岩橋誠司, 奥田修司, 神波信次: 自然経過で退縮した広範囲リンパ管腫の1男児例. 第128回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000.10. 和歌山市

34. 小山博史, 水越真里, 中西直之, 宮下律子, 柳川敏彦: 脳膿瘍を合併した大腸菌性髄膜炎の一新生児例. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
35. 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃, 南 弘一, 柳川敏彦: 小児の感染症における各種サイトカインの検討. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
36. 山家宏宣, 佐古まゆみ, 金兼弘和, 宮脇利男: 伴性無ガンマグロブリン血症 (X-linked agammaglobulinemia, XLA) の 1 例. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
37. 林 寛子, 崎山美知代, 南 弘一, 柳川敏彦, 紀平省悟, 西本幸弘, 結城伸泰: 免疫グロブリン大量療法が著効した IgG 抗 GD1b 抗体単独陽性のギランバレー症候群の一例. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
38. 重里敏子, 中尾幸子, 紀平省悟: 養護学校生徒の医療ケアの実施例. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
39. 小山佳紀, 小山 要, 大石 興, 紀平省悟: 家庭環境が起因で摂食障害になったと思われる 11 歳男児例の関わり方. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
40. 紀平省悟, 大石 興, 南 弘一, 小山佳紀: 小児強迫性障害の 4 例. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
41. 大石 興, 島 友子, 坊岡美奈, 奥田真珠美, 宮代英吉: 小健中湯、人参湯が有効であった過敏性腸症候群の 11 歳女児例. 第 128 回 日本小児科学会和歌山地方会, 2000. 10. 和歌山市
42. 白井高司、宮本聡、桜井啓一: 心身障害児の食行動異常の分析. 第 14 回近畿重症心身障害児施設研究大会、2000. 11. 京都

e) その他

1. 南 孝臣, 樋口隆造, 宮脇正和, 小山博史: 新しい NICU 患者情報管理システムの開発. 第 2 回 新生児呼吸療法・モニタリングフォーラム, 2000. 1. 長野
2. 上村 茂: 特別講演「子どもの心電図異常(症例を中心に)」。第 31 回和歌山県学校医研修会. 2000. 1. 19. 和歌山県那賀郡打田町
3. 南 孝臣, 宮脇正和, 北野尚美, 小林昌和, 山家宏宣, 樋口隆造, 小山博史, 小池通夫: 新しい NICU 患者情報管理システムの開発. 第 13 回 和歌山周産期医学研究会, 2000. 2. 和歌山
4. 柳川敏彦: SIDS (乳幼児突然死症候群) の最近の考え方 平成 12 年度和歌山小児保健研修会①2000. 1. 22 和歌山市②2000. 2 那智勝浦町③2000. 3 田辺市
5. 西原正泰, 南 弘一, 柳川敏彦, 大谷和正: 複雑部分発作に対しバルプロ酸で発作増強を認めた皮質形成異常の 10 歳男児例. 第 17 回和歌山小児神経研究会, 2000. 5. 13. 和歌山市
6. 上村 茂: パネルディスカッション「心血管機能解析の進歩」(4)核磁気共鳴画像(MRI)測度マッピング法を用いた小児での心拍出量の測定および短絡量・弁逆流量の測定. 第 51 回東京心臓の会. 2000. 5. 20. 東京
7. 坊岡美奈, 宮代英吉, 奥田真珠美, 石井 侃: バルプロ酸による体重増加の検討. 第 17 回和歌山小児神経研究会, 2000. 5. 和歌山
8. 白井高司: 障害児の指導について -医療と教育の連携を中心に-. 近畿障害児教育研究会, 2000. 6. 15. 大阪
9. 柳川敏彦: 子育てを考える-子どものころ、母親のころ-平成 12 年度和歌山県保育所保護者会連合会研修会 2000. 7. 1, 和歌山市
10. 柳川敏彦: 障害児の病理, 平成 12 年度特殊教育新任担任教員研修 2000. 7. 27 和歌山市
11. 柳川敏彦: 地域における子どもの虐待防止活動, 平成 12 年度主任児童委員研修会, 2000. 9. 28 和歌山市
12. 月野隆一, 佐々木美津代: 13trisomy/13marker 染色体の一男児例. Kansai Dysmorphology Club 2000. 9 大阪
13. 楠山美奈, 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃: 母体 E 3 持続低値から診断に至ったサルファターゼ欠損症の男児例. 第 14 回和歌山周産期研究会, 2000. 9. 和歌山市
14. 芳山 恵, 奥田真珠美, 宮代英吉, 石井 侃: 過去 12 年間に当院小児科を受診した 2 歳未満の無熱時け

- いれんの検討. 第 18 回 和歌山小児神経研究会, 2000. 10. 和歌山市
15. 紀平省悟: 自閉症への理解を深めるために. 日本自閉症協会和歌山県支部紀北分会講演会, 2000. 10. 15. 和歌山市ふれ愛センター
 16. 白井高司: 障害者の内科的疾患. 上富田町リハビリ教室 2000. 10. 28. 上富田町
 17. 柳川敏彦: 地域における子どもの虐待防止活動, 平成 12 年度管内母子保健推進委員研修会 2000. 11. 9 田辺市
 18. 南 弘一, 柳川敏彦, 鈴木啓之, 小林昌和, 小池通夫, 吉川徳茂, 奥田真珠美: 非チフス性サルモネラ腸炎に伴う急性脳症の検討. 第 18 回和歌山小児神経研究会, 2000. 11. 18. 和歌山市
 19. 柳川敏彦, 中山京子, 青柳憲幸, 南 弘一, 武内 崇, 吉川徳茂: 小脳症状を呈した好酸球性髄膜炎の 1 例. 第 18 回和歌山小児神経研究会, 2000. 11. 18. 和歌山市
 20. 武内 崇, 南 弘一, 鈴木啓之, 柳川敏彦, 上村 茂: West 症候群に対する ACTH 療法中の心機能について. 第 18 回和歌山小児神経研究会, 2000. 11. 18. 和歌山市
 21. 上村 茂: パネルディスカッション「小児循環器疾患の検査法の進歩」(1)MRI ; 位相画像法を用いた肺体血流量比の測定および房室弁逆流量の定量化の試み. 第 16 回循環器情報処理研究会. 2000. 11. 18. 東京
 22. 柳川敏彦: 子どもに手が出てしまうとき—早期発見とその対応—平成 12 年度母子保健事業による子育て講座講習会 2000. 11. 28 海南市
 23. 白井高司: 呼吸障害児の吸引の実際. 南紀養護学校医療的ケア講習会 2000. 11. 21、11. 29. 上富田町
 24. 鈴木啓之: 川崎病発症への溶連菌外毒素(SPE-C)と抗血管平滑筋自己抗体の関与について 第 15 回和歌山川崎病研究会 2000. 12. 和歌山
 25. 紀平省悟: 「てんかん医学基礎講座— てんかんについて学ぼう」 日本てんかん協会和歌山県支部講演会, 2000. 12. 11. 広川町(たちばな養護学校) .
 26. 白井高司、宮本聡、桜井啓一: 重症心身障害児の親のターミナルケアについての心理. 第 8 回近畿障害児問題研究会、2000. 12. 滋賀

研究費交付状況

1. 平成 12 年度厚生科学研究こども家庭総合研究事業「小児難治性腎尿路疾患の病因・病態の解明、早期発見、管理・治療に関する研究」分担研究「IgA 腎症の治療」: 吉川徳茂
2. 平成 12 年度文部省科学研究費補助金「溶血性尿毒症症候群の発症、進展における血小板活性化因子と分解酵素遺伝子変異の役割」研究代表者: 吉川徳茂
3. 平成 12 年度厚生省科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「川崎病の治療と長期管理に関する研究」主任研究者: 加藤裕久 分担研究者: 上村 茂
4. 平成 12 年度厚生省科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「虐待の予防、早期発見及び再発防止に向けた地域における連携体制の構築に関する研究」主任研究者: 松井一郎 分担研究者: 柳川敏彦
5. 平成 12 年度文部省科学研究費補助金 奨励研究(A)「複雑心奇形に伴うカルシウム代謝異常に関する分子生物学的研究」 研究代表者: 南 弘一
6. 小児医療研究委託事業「小児の院内感染症の予防に関する基礎的、臨床的研究—診断基準の作成(小児科)」分担研究: 小林昌和
7. 財団法人生存科学研究所川崎病研究会・特定非営利活動法人日本川崎病研究センター共同研究助成補助金: 「川崎病発症への溶連菌外毒素(SPE-C)の関与について」研究代表者: 鈴木啓之